

山本の大活躍で仙台大を粉砕！6年ぶり頂点に王者！



駒澤大学2-1仙台大学

貴重な先制点を挙げ、喜び酒井(中央)を祝福する選手たち
(撮影:東條貴史)

7月8日 15:30 大阪長居第2陸上競技場

駒大 $2 \begin{matrix} (1-0) \\ (1-1) \end{matrix} 1$ 仙台大
(関東第2代表) (東北代表)

得点者 (アシスト)

【駒】22分: 酒井(山本)
【仙】54分: 奥埜(森田)
【駒】65分: 山本(田中)

KOMAZAWA

GK①岡 大生(4)
DF②酒井隆介(4)
DF④林堂 眞(3)
DF⑥金 正也(4)
DF③亀井秀将(4)
MF⑯笠井雄太(4)
MF⑩碓井鉄平(1)
(77分 MF⑱宮城雅史(2))
MF⑦金久保 彩 (4)
MF⑩田中信也(4)
FW⑨棗 佑喜 (4)
(86分 FW⑳大園祥太(3))
FW⑫山本大貴(1)
(80分 MF⑰湯澤洋介 (2))

S U B

GK⑫井指隆範 (4)
DF ⑤山崎結吉(3)
DF⑯濱田 宙(3)
FW⑳肝付将臣(3)

MANAGER

秋田浩一

SENDAI

GK①大金祐輔(4)
DF②木内 瑛(2)
(79分DF中山涉吾(1))
DF③平野洋介(3)
DF④蜂須賀孝治(2)
DF⑩和泉 隼(4)
MF⑥山崎航太(4)
MF⑦森田光哉(3)
MF⑧季澤忍治(4)
MF⑭黒田涼太(2)
FW⑨奥埜博亮(3)
FW⑪佐藤世弥 (3)
(77分 FW⑱草刈大地 (3))

S U B

GK⑫坂本佳宜(4)
DF⑳菅井慎也(1)
MF⑳石井友磨(2)
MF⑳菅井拓也(1)
FW⑱西村光司(1)

MANAGER

吉井秀邦

[シュート]13:11[CK]4:8 [FK]6:3 [直接FK]16:17

[間接FK]3:13[OS]3:11[主審]岡 宏道 [観衆]約100人

警告(C)/退場(S)

【駒】棗 佑喜(C)、金 正也(C)、林堂 眞(C)
【仙】中山涉吾(C)

※データの左側が駒大

東北王者を破り6年ぶりの決勝へ！

昨年同大会で準優勝の高知大を破り、勢いにする駒大。準決勝の相手は攻撃サッカーを掲げる仙台大との対戦となった。

立ち上がりはパスを細かく繋いでゴールに迫ってくる相手に対し、守備に追われる時間が続いたが、持ち味である縦に速い攻撃からチャンスを窺い、徐々に主導権を握り始める。18分に田中の縦パスに抜け出した山本がビッグチャンスを作ると、22分には待望の先制点を奪う。絶妙なタイミングで抜け出した山本が左サイドからクロスを送ると、これを「いつも逆サイドからのセンタリングの時は狙っている」酒井がボレーで豪快に叩き込んだ。その後も前線からプレスを仕掛け、粘り強いディフェンスで仙台大に決定機を許さず、1点リードで前半を折り返す。

「開始直後に攻めてくると話してはいた」という秋田監督だったが、54分にクリアミスから失点を喫し、試合を振り出しに戻されてしまう。思わぬ形で追いつかれたが、フィジカルで勝る駒大はここから真価を発揮する。65分、右サイドを突破した田中のクロスを手本が決めてあっさり勝ち越しに成功すると、足の止まった相手に対し、運動量で圧倒。劣勢の中でもパスを回し、チャンスを作ろうとする仙台大に前線からプレッシャーをかけ、最終ラインでは金、林堂の両CBを中心に粘り強く体を張って攻撃を跳ね返し続けた。その後スコアが動くことは無く、そのままタイムアップを迎え、6年ぶりの決勝進出を決めた。

試合後、金主将は「やられる気はしなかった」と語ったが、その試合運びには安定感が増してきた。縦パスに狙いを絞った粘り強い守備は、試合を重ねるごとに成長し、より強固なものとなった。決勝ではエースの棗・守備の要の林堂を累積警告で欠くこととなったが、その後の優勝を感じさせる好ゲームとなった。

(西山 裕之)